

SCHEDULE 10→12月

展覧会・イベントスケジュール

沼への着水は、ここから。

2023	10月	11月	12月
大阪市立自然史博物館 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL:06-6697-6221 開館時間:9:30~17:00 11月~2月は16:30まで (入館は閉館の30分前まで) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、年末年始	10/21-22 「ホネホネサミット2023」 日本中から骨格等の動物標本製作をしている団体・個人が集うイベントです。ブース展示や講演会を通して、ホネ標本の魅力や、死体を標本として残す意義を伝えます。	11/4-5 「第23回 こどものための ジオ・カーニバル」 宇宙や気象、化石や鉱物まで、地学に特化した子ども向け体験型科学イベント。 http://geoca.org	11/18-19 「大阪自然史フェスティバル2023」 関西を中心とした自然史関連の団体・個人による市民参加型の文化祭です。ブース展示、参加型企画、講演会、講習会などを通して、市民のみなさんに自然に関わる楽しさをお伝えします。
大阪市立科学館 大阪市北区中之島4-2-1 TEL:06-6444-5656 開館時間:9:30~17:00 (展示場入場は16:30まで、プラネタリウム最終投影は16:00から) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日) ※11/6よりリニューアル工事等のため長期全館休館	8/30~11/5 企画展 「プラネタリウムの歴史と大阪」 誕生100周年を迎えたプラネタリウムの歴史と、大阪に登場した日本初のプラネタリウムについて紹介します。	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館
大阪歴史博物館 大阪市中央区大手前4-1-32 TEL:06-6946-5728 開館時間:9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:火曜(祝日・休日の場合は翌平日)、年末年始(12/28~1/4)	10/4~1/8 特集展示 「新発見!なにわの考古学2023」 大阪市内で2021~2022年度を中心に行われた発掘調査を紹介。出土資料から都市大阪が長い歴史を持つことが実感できます。	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館
大阪中之島美術館 大阪市北区中之島4-3-1 TEL:06-6479-0550 開館時間:10:00~17:00 (展覧会会場への入場は閉場の30分前まで) 休館日:月曜(ただし10/9、1/8は開館)、10/10、年末年始(12/31、1/1)	10/7~12/3 「特別展 生誕270年 長沢芦雪 奇想の旅、天才絵師の全貌」 奇想の天才画家、長沢芦雪に焦点をあて、その画業を紹介する大阪で初となる回顧展です。	10/26~1/14 「テート美術館展 光 —ターナー、印象派から現代へ—」 英国・テート美術館から「光」をテーマに、異なる時代、異なる地域で制作された約120点を紹介します。	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館
大阪市立美術館 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 (天王寺公園内) TEL:06-6771-4874	改修工事のため2025年春(予定)まで休館 ▶ 休館中もオンラインイベントなどを開催予定! 熊本に貸出中! 熊本県立美術館 特別展 「美をつくし —大阪市立美術館コレクション—」 大阪市立美術館の所蔵作品の中から厳選された約150件を、熊本県立美術館でご覧いただけます。	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館
大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市北区中之島1-1-26 (中央公会堂東側) TEL:06-6223-0055	改修工事のため2024年春(予定)まで休館 オンラインショップで図録やグッズ販売中! Instagram(@moco_press)も要チェック!	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館	11/6~改修工事のため2024年夏(予定)まで休館

OSAKA MUSEUMS

見て、感じて、開け好奇心。

VOL. 26
2023.10→12
TAKE FREE



何かに夢中になってハマッてしまっ状況を「沼る」と表現します。今号では、ミュージアムのさまざまな「コト・モノ」に「沼っている」方々の声から、奥深い楽しみ方を紹介します。



★今秋注目の展覧会はこちら!
 (左)「特別展 生誕270年 長沢芦雪 一奇想の旅、天才絵師の全貌」(10/7-12/3)
 (右)「テート美術館展 光 ーターナー、印象派から現代へ」(10/26-1/14)

2022年2月オープンの美術館。
 黒い外観とオレンジ色の服を着た猫の彫刻は、
 外からもインパクト大。



ヤノベケンジ
 (SHIP'S CAT(Muse))
 ©Kenji Yanobe
 写真提供:
 KENJI YANOBE
 Archive Project



北野恒宣(五月雨)昭和13年(1938)
 大阪中之島美術館蔵



アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック
 (ディヴァン・ジャポネ) 1892-93年
 サントリーポスターコレクション
 大阪中之島美術館寄託

これは何?
 次は何?
 興味止まらない
 新しいアート体験。



佐伯祐三(彌智子像)1923年
 大阪中之島美術館蔵



佐伯祐三(郵便配達夫)1928年 大阪中之島美術館蔵

今西さんが美術館にハマるきっかけとなった佐伯祐三コレクション。愛児を描いた《彌智子像》(左)と、代表作の《郵便配達夫》(右)。

大阪中之島美術館
 清掃スタッフ
 (朝日建物管理株式会社)
 今西さん



仕事の相棒に、美術にまつわる名前をつけるほどハマっています!

このお掃除ロボは、佐伯祐三展がきっかけで「YACHIKO号」と命名。作者のことは全く知りませんでしたが、作品を見て、娘への愛情に触れ、大好きな作家になりました。仕事中に会場の空気を味わうのはもちろん、休みの日にも来館して、時間を忘れて鑑賞しています。



〈拡大〉



謎めいた黒いかたまりの中に、めくるめくアートの世界が!

個性的な外観ですが、中は開放的でウェルカム精神にあふれた空間。毎日ここで過ごせるのが幸せです。分野の異なる展覧会を同時に開催しているので、私もここで日本画の奥深さを知りました。展覧会限定バッジが増えているのも、楽しみです。



現存しているのは世界でわずか3体と数えられる希少な「羽人」。

沼

ミュージアムにハマるワケ。

わたしのぬま

作者の人物や作品の魅力に惹かれ、その世界を知るうちにどんどん深みにハマっていく...。ミュージアムに広がるさまざまな「沼」へと皆さんをご案内します。一步足を踏み入れると、抜け出せなくなるかも!?

神の化身が伝える、2300年前から続く深〜い欲望。

大阪市立美術館

《仙人像[羽人]》

中国の古代王朝である後漢時代に広がった「神仙思想」。不老不死の仙人を信じる思想で、この「羽人」は願いの象徴である仙人を象ったものです。青銅製の像に金銀のメッキを丁寧に重ねていることから、かなり高度な技術が駆使され、裕福な遺族が故人の永遠の魂を願って副葬品として納めたのでは

ないかと考えられます。この羽人には本来あるはずの羽がなく、膝の部分には穴があり、広げた手と足で何かを支えているようにも見えますが、実際の用途は謎に包まれたまま...。それでも、飄々とした表情とポーズに、親しみが湧いてくる不思議な魅力のこの羽人。不老不死という深い沼のような欲望が2300年以上前から存在していることを、静かな笑みが教えてくれています。

★改修工事のため、2025年春(予定)まで休館中。



大阪市立美術館
 職員 上村真弓さん

おらかな表情に手の動き。見た瞬間から夢中!

初めて見たときに「かわいい!」と飛びつき、羽人が展示されるコレクション展は必ず展示会場へ行き、見入っています。誕生仏立像などの小さな仏像も好きで、今は背景にも興味を湧いてきています。

植物の世界の、さらに奥を知れば誰もが博士気分!

★「長居植物園案内」は毎月第1土曜日に開催中!



参加費無料(植物園入園料必要)。自然史博物館 玄関前ガーチに毎月第1土曜日 午後2時30分にお集まりいただければどなたでも参加できます(小学生以下は保護者同伴)。

大阪市立自然史博物館

学芸員がガイドする《長居植物園案内》

とある土曜日、長居植物園の一角に人だかりが。これは植物専門の学芸員とめぐる「植物園案内」の一行で、園内に植えられた希少な花や樹木だけでなく、私たちが普段「雑草」と呼ぶ植物にも注目しながら、学芸員ならではの視点で案内してもらえます。最新の研究内容を交えた解説や、常連の参加者と学芸員のマニアックなやりとりはライブ感満載で、その熱量に圧倒されるほど。植物の名前や生態を知り、ルーペをのぞき込んだ帰り道には、つい植物博士気分で「この葉の形状は、ワルナスビですね!」などと言いたくなるはず。そうなればもう沼に落ちた証拠。雑草ひとつにも不思議な生態があり、季節によっても姿カタチが変化する植物たちは、私たちがまだ知らない魅力にあふれています。

ワルナスビ。2022年7月、長居植物園内で撮影。

大阪市立自然史博物館
 補助スタッフ 小林智さん



沼につかること早20年! 好きが高じて研究の道へ!

物心つく前からの常連です。今では大学で植物を研究しながら、休日にはこの案内の補助をしています。何度来ても、植物はこれほど多種多様なのかと発見がたくさん。植物がどうやって花粉や種を速くに運び、生き延びているのか、その生き方が面白くてたまりません。

どう作られて、 どう運ばれている？ 知るほどスゴい「電気」。

大阪市立科学館

《1階/電気とエネルギー》

私たちの生活になくてはならない「電気」。日本の公の場で最初に電灯が点いたのは1878(明治11)年、電池の直流電氣を用いました。これはトーマス・エジソンの発熱電球の発明前のことでした。その後、交流の電氣を送電する仕組みが飛躍的に進化を遂げ、今では空気や水のような当たり前の存在として社会を支えています。

そんな電氣の仕組みを体感できるのが1階の「電気とエネルギー」。火力・水力・原子力発電の仕組みや、送電の様子がわかる展示物のほか、電柱や鉄塔の実物も！電柱にあるパケツのような容器は、電氣の電圧を下げる重要な働きをしているなど、発電電の仕組みを知ることができます。光になり、モノを動かし、熱にも変わる電氣。先人たちの熱量が詰まった知恵のスゴさをここでありありと体感できます。



(上) (左) 本物・実物・生の現象をモチーフにした展示物の数々。「水力発電」ではハンドルを回して水を汲み上げ、ためた水が下に落ちる力で電氣を起す。(下) Tくんが好きな「コンセントからの旅」。家庭のコンセント口のその先にある電氣の道筋がよくわかる。



大阪科学館
ジュニア科学
クラブ会員
Tくん

小学5・6年生を対象としたジュニア科学クラブでは、月に一度の活動で、幅広い分野の科学実験教室やプラネタリウム、サイエンスショーの見学ができる。限定/バッジと手帳が会員の証。

ジュニア科学クラブの後に
よく立ち寄っています！

「コンセントからの旅」で、画面を見ながらワイヤを引くと、家から郊外、山の中へと場面が変わり、最後に発電所に到着。電氣がこんなに速いところから届いているのがわかって、驚きました！



乳白色の白磁や四面に描かれた文様が美しく、「秋草手」(韓国を代表する意匠の作品)屈指の名作として知られている。

《青花 窓絵草花文 面取壺》
朝鮮時代 18世紀前半
大阪市立東洋陶磁美術館
(住友グループ寄贈/
安宅コレクション)
写真:六田知弘

いろいろな
角度から
作品をチェック！



焼き物の中に渦巻く、 時代が紡いだ ストーリー。

大阪市立東洋陶磁美術館

《青花 窓絵草花文 面取壺》

韓国・中国陶磁を中心に国宝2点、重要文化財13点を含む約6,000点のコレクションを擁する東洋陶磁美術館。企業や個人からの寄贈が多く、作品だけでなく収集家たちの審美眼も楽しむことができます。例えばこの面取壺は、大阪の総合商社 旧安宅産業のコレクション。丸い壺から胴と高台を八角に削り落したもので、よく見ると面の取り方が不均一で器壁の厚みも揃っておらず、陶磁器ながら紙のように薄く透けて見える部分さえあります。作者があえて仕上げたであろうこの自然な風合いが、収集家を虜にしたのかもかもしれません。歴史的・芸術的な価値だけでなく、かつて誰かがこよなく愛し、長い時間の中で守られてきた作品たち。壺や碗をのぞき込むと、一つひとつに時代が紡いだ物語が広がっています。

大阪市立東洋陶磁美術館
職員 松岡由布さん

★改修工事のため、
2024年春(予定)まで休館中。



お客様の焼き物愛に触れ、
いつのまにか沼の中に…。

この面取壺のポストカードを、毎年決まってFAXで注文されるお客様がいます。注文を受けて3年目に、当館の思い出を綴ったお便りをいただきました。「20年以上前、関西に住んでいた頃は面取壺を見に何度も来館していた」とのこと。一つの作品をこれほど深く愛する感性に触れ、作品がぐっと身近に、興味深く感じられるようになりました。こうしたお客様との関わりが、新たな魅力に気づききっかけになっています。

大阪市文化財協会

江戸時代(18世紀末)の《入れ歯》

発掘調査と言えば土器や石器が出てくるイメージではありませんか？実はそれだけでなく、暮らしにまつわるあらゆるものが出土しており、ときには「入れ歯」が見つかることも。前歯にあたるこの入れ歯は、江戸時代の佐賀藩蔵屋敷跡から出土したもの。材質はやわらかい滑石と考えられ、構造から見ても口の中にしっかり固定することは難しく、食事には不向きだったようです。では何のために用いたかという点、おそらく見た目の美しさを保つため。現代も歯を白く見せるさまざまな工夫がありますが、江戸時代から美観のために入れ歯を使っていたとは驚きです。カッコよく見せたい、ステキに見せたいなど、今と変わらぬ価値観があったとすると、江戸時代の暮らしにもっと触れたいと思います。

モノがたどってきた物語を
想像する時間がたまらない！

仕事柄、出土したばかりの遺物をよく見るのですが、この歯を見たときは「江戸時代に入れ歯!?」ととても驚きました。どんな人が使っていたのかと物語を考えるのが至福のひとつです。この想像がとまらず、軽い気持ちで発掘調査のアルバイトをはじめたから、いつのまにか30年も経っていました(笑)。



大阪市文化財協会
職員 吉岡智子さん

★入れ歯など遺物の見学は
要事前電話予約。詳しくは7ページへ。

※撮影用に窓のブラインドを開けています。



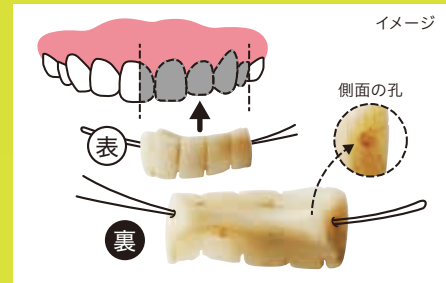
最古の都、ここにあり。 歴史を変えた偉人の素顔。

大阪歴史博物館

《10階/難波宮を掘る》

現在の難波宮跡公園一帯に飛鳥・奈良時代の首都「難波宮」があったことを突き止めたのが山根徳太郎氏です。1913(大正2)年に法円坂で古代の瓦が発見されたことから難波宮の存在を確信。1954(昭和29)年から発掘調査を開始し、厳しい条件下でも地道に調査を続け、1961(昭和36)年に奈良時代の大極殿(正殿)跡を発見。発掘調査がうまく進まない状況でも、人々に揶揄されてもあきらめず、その圧倒的な組織力で各界の専門家や住民と力を合わせて信念を貫きました。現在、跡地が保存されているのも「遺跡は一度壊すと二度とつくれぬ」という山根氏の執念の賜物。山根氏の偉業を知るほどに、歴史を塗り替えるのは人であるという底しれぬ面白さが感じられます。

(上) 出土した場所から、佐賀藩の家臣が入れ歯をつけて威厳を保ったのではと想像できる。(下) 側面の孔から紐を通し、健康な歯に紐でくくりつけて使用していたと考えられる。



10階の「難波宮を掘る」コーナーには、発掘の歴史に関連する資料とともに、難波宮跡公園を見下ろすように山根徳太郎氏の胸像が設置されている。

★10階古代フロア
「難波宮を掘る」内に展示中。



大阪歴史博物館
友の会会長
梅田徹さん

研究者としての
真摯な姿勢にリスペクト。

教員時代に大阪歴史博物館と関わりをもち、歴史への深い興味から現在は友の会の会長を務めています。山根博士の書籍をすべて読み、苦難の中でも計画的に意匠に調査を続けられた姿に感銘を受けました。この発見が大阪の発展に大きな影響を与えていることにも山根博士の偉大さを感じています。



ミュージアムの推しごと

まだある！
ユニークで何か気になる
ミュージアムの
推しなコト。

推しの真相

名作・名品の
ウラ側を
探る！

やっぱり植物？
それとも巣穴…？



植物に見せかけて…!? 明かされた化石の正体。
《コダイアマモ》

細長い葉が広がる形状からアマモ(海草)の祖先に当たるとして「コダイアマモ」と名づけられたこの化石。しかし、命名直後から「動物の痕跡では？」との説がささやかれ、2016年に「海底に住んでいた動物の巣穴=生痕化石」とする論文が発表されました。論文では葉にあたる部分に泥岩が詰まっていることを示し、この化石が食卓と居住スペース、トイレを分離する生活スタイルをもった動物の巣穴であると解釈しています。海底の植物か、それとも動物の巣穴か、それぞれの根拠を思い浮かべながら、じっくり観察してみてください。

★本館2階ギャラリーで展示中。

大阪市立自然史博物館



自由に書き込める
無地ノート!

COLLECTOR'S EYE

これはレア!

プラネタリウムの
アニバーサリーグッズが新登場!

プラネタリウム100周年
オリジナルクリアファイル/¥150(税込)
オリジナルB5ノート(紺色・グレー)/各¥200(税込)

ネットショップでも
購入可能!



プラネタリウム誕生100周年の記念すべき年に、日本天文遺産に認定されたカールツァイスII型投影機をデザインしたオリジナルグッズが登場しました。クリアファイルはシンプルに、ノートの表紙は機械の細部まで鑑賞できる“メタル”と、投影中の雰囲気を感じられる“シルエット”の2種類。ノートの裏はそれぞれ異なるデザイン。プレゼントやお土産にもおすすめです!

大阪市立科学館

江戸時代の僧侶の“夢”をのぞき見。
《弁財天像》

元タインド神話の女神で、音楽や財福、智慧などの徳があるとされる弁財天は、仏教にも取りこまれ、信仰されてきました。この作品では下半身のみをまとうラフな姿でありながら、豪華な冠を戴き、冠上には耳のある白蛇がちよこんとぐるりを巻いています。蛇と描かれることの多い弁財天ですが、この絵では足元に15匹もの蛇が、画面上部の墨書には、尊海という僧侶が夢に見た姿を留めておくために描かれたことが記されています。弁財天の微笑みにキュンとするとともに、個人の夢を盗み見するような不思議な感覚が味わえます。



絹本着色 弁財天像 江戸時代 元禄元年(1688) 大阪市立美術館蔵

2022年度に、1年間かけて
修理したこの作品。
美術館の改修工事後、2025年度の
お披露目にご期待ください!

大阪市立美術館

ミュージアム

推したくなる!

回り込むと、
背面にも
作品が!



(正面)田中敦子《作品》(1961年、大阪中之島美術館蔵)
「すべて未知の世界へ - GUTA! 分化と統合」展示風景

ミュージアムのお仕事

歴史を
深掘りできる
アイテムをそろえて
お待ちしております!

『歴史に関する書籍や雑貨を取り扱っているため、日ごろから歴史の勉強は欠かせません。また、海外からのお客さまも多く、日本語で「ありがとうございました」と返していただけるのがとてもうれしく励まされています。お客さまに楽しい思い出を持ち帰っていただけるよう、来館、そして来阪の記念になる品ぞろえと店づくりに努めています。』

ミュージアムショップ SHINOBYA 店長 巽哲治さん



歴史も英語も
日々勉強中!

大阪歴史博物館

どうやって選んでいるの?

Q 額縁の役割や選び方を知りたい

A 額縁は木製の重厚なものからステンレス製までさまざまあり、作品表面を保護するアクリルやガラスの有無も重要な要素。作品を保護しながら魅力を最大限に引き出すことを重視し、最適な方法を選んでいます。例えばこちらは、カンヴァス両面に作品が描かれ、従来の額装では片面しか展示できませんでしたが、化粧額を両面から取りつけ、左右を展示什器で支えることで両面展示を可能にしました。額装・展示方法の工夫で、より充実した鑑賞体験をご提供できるよう努めています。

回答担当: 国井 綾さん(学芸員)

知りたい
気持ちに
学芸員が
お答え!



大阪中之島美術館



お客さまを
お迎えするために、
絶賛準備中!

映えな View

開放感バツガン!
NewなViewスポット

《ガラス建屋の「新エントランス棟」》

改修工事中の大阪市立東洋陶磁美術館では、新エントランス棟の工事の覆いが取り外され、今ではその全容を見ることができます。高さ7mのガラス張り、四隅に柱がなく、屋根を支えるのは中央の“らせん階段”部分。こうした構造物で屋根を支える方式は日本でも珍しいのだとか。開放感のある新しいエントランスが皆さまにご利用いただけるのは2024年春の予定です。どうぞご期待下さい!

発掘調査によって出土した大阪の文化財を
見ることができる!

大阪市文化財協会



〒540-0006
大阪市中央区法円坂1-6-41
開館時間/9:00~17:00
休館日/土曜・日曜・祝日、
年末年始

見学は電話での事前予約をお願いします。
TEL:06-6943-6833

